

IV-2

土木史資料のアーカイブ構築に関する研究

— 田辺家資料を例として —

北海道大学大学院工学研究科 学 生 員 原口征人
北海道教育大学旭川校 正 員 今 尚之
北海道大学大学院工学研究科 フェロー 佐藤馨一

1. はじめに

土木事業を進めるには、事業の計画・施工などにもないさまざまな資料が発生する。現用を終えたこれらの資料は、当該機関で一定期間の保管をうけたあと文書館や図書館に移されるもののほかに、技術者が個人的に整理し保管していたものもある。

特に明治・大正期の技術者の資料は当時の事業自体が本邦初の試みであったり、彼らの決定が後の歴史を方向づけたりしたため、歴史的価値が高いものである。また技師のプロフィールを示す私的資料も、当時の技術者像を伝える土木史研究上貴重な資料になる。これら土木の歴史的資料をいかに保存し活用していくかを考えると、図書館や博物館とは異なるアーカイブス(文書館)が着目される。

2. 田辺家資料

(1) 田辺朔郎の功績と田辺家資料

田辺朔郎(1861~1944)は、明治の第1世代の技術者としてさまざまな土木事業や学術研究、教育に関係した。土木事業では琵琶湖疏水事業を皮切りに北海道をはじめとする鉄道事業、各地の水力事業、トンネル、都市計画、防災などおよそ土木に関連するあらゆる分

野の業績をもつ。学術面では京都帝大教授であったほか「明治工業史」・「明治以前日本土木史」を編さんした業績がある。

田辺家(京都市左京区)の蔵には、博士が仕事に用いた文献・資料、書類が多数残されている。この資料には博士の人事記録や書簡、晩年の随筆、趣味の日本画・書・手彫りの調度品など、博士の私生活を語る貴重な資料が存在している。また、鉄道線路の振動・たわみの実験データや装置、工事記録の写真や、博士自身が未整理のままとした資料や著作の直筆原稿などの土木史的価値の非常に高い資料も認められる。

(2) これまでの調査経緯

田辺家資料の過去の経緯を図1にまとめる。ここに示すように、資料には今まで2度の調査がなされている。京都大学天野研究室の調査では、資料を分類し目録化する作業が行われた。これにより各資料1点ごとの整理番号が付加され、目録カードが作成された。田辺博士自身が資料を事業ごとにまとめたかたちでそのまま残していたため、それをそのまま分類単位として用いて整理番号をつけている。最終的には1400点あまりに資料が分類され、目録カードに登録された。

京都市水道局の調査では、「琵琶湖疏水記念館」の建設にともない、資料を展示するため主だった資料を段ボールにつめ記念館に移した。資料の取扱は田辺家が疏水記念館に寄託したものとなっている。移動した資料に対しては目録が作成されている。

現在蔵内に存在する資料は、このとき運ばれなかった資料と田辺家の物品である。

3. 田辺家資料のアーカイブ化

(1) アーカイブの特徴

アーカイブの特徴は、対象を特定の個人・団体が活動に用いた記録文書群に特定し、それらを一括保存し利用するシステムである点である。またアーカイブスでは、資料が保存され登録されていればその保管場

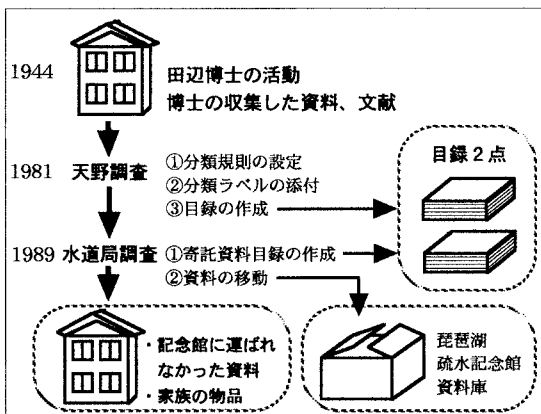


図1 過去になされた調査と田辺家資料の現状

キーワード: 土木資料、田辺朔郎、アーカイブス

連絡先: 〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目、TEL 011-706-6215、FAX 011-726-2296

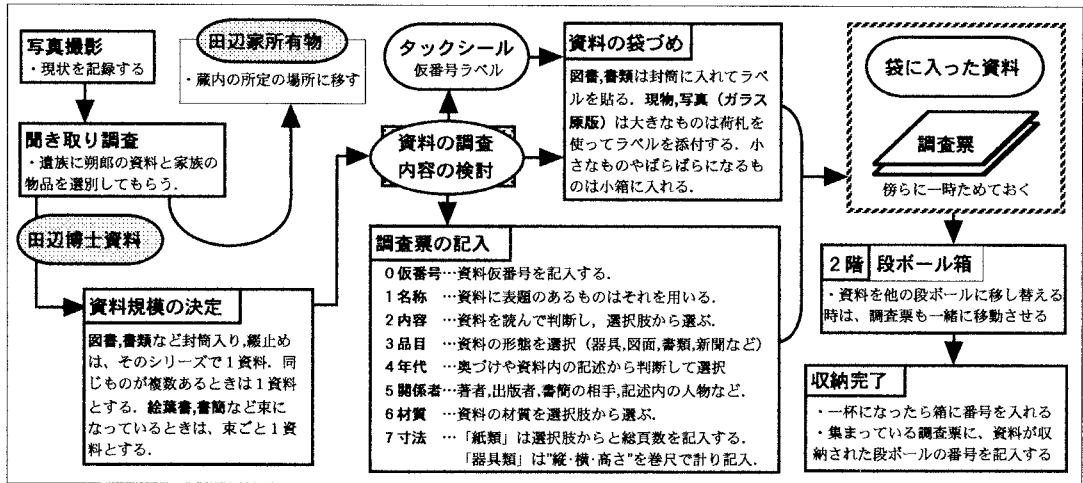


図2 田辺家蔵調査作業フロー

所、保管形態は問題ではない。重要なことは、文書間の関連性を崩さず保存し、利用のための検索にたえるかである。田辺家資料は記念館と蔵内に資料が分散しているため、パソコンデータベース上で統合した目録を作成することとした。

(2) 田辺家資料アーカイブ作成

アーカイブ作成プロセスを図3に示す。まず2点の目録の内容を検討した結果、分類方法などは同一であり水道局目録は天野目録を完全に包含していることが分かった。このため、水道局目録を電子情報化してアーカイブ情報の基本とすることとした。

また、田辺家蔵に残されている資料については水道局目録に登録されていないため、新しく目録を作成する作業を行った。天野調査の資料分類方法はアーカイブの「現秩序保存の法則」を満たすものであるため、本調査でもその分類方法を踏襲した。

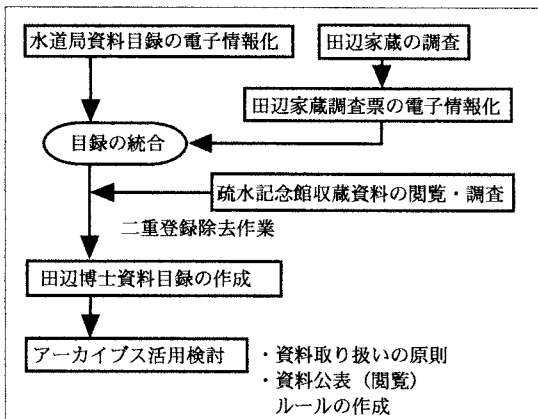


図3 田辺家資料アーカイブ作成プロセス

4. 田辺家蔵調査（H9,12.8～17）

作業フローを図2に示す。資料目録作成と同時に蔵内の保管秩序をつくることもその目的とした。

蔵内では調査票によって資料内容を書きとめ、資料を袋に入れて段ボール箱に収め、整理した。目録情報が以前の調査と整合性を持つよう配慮して調査票を作成し、作業後に持ち帰った調査票をコンピュータ入力して目録化することとした。後の検索を考慮し、収納された箱番号と資料登録番号が対応するようにした。

資料の保管場所は蔵の2階とし、場所を区切って博士の資料を置く場所と家族の物品を置く場所を明確に分離した。作業人員は3名ないし4名で行い6日間の作業日で終了した。紙類資料は42箱の書籍運搬用段ボール箱に収められ、箱に入れられない現物などは棚に並べられた。総計で743件の資料が新しく登録されたことになる。

5. おわりに

このような土木史資料の保存は事例として少なく、田辺家資料についても資料の公開・閲覧場所等の問題が残されており、今後の対応が求められる。最後に、田辺博士三男多聞氏夫人、田辺美佐子氏に対しては調査へのご協力への感謝と、資料を現在まで多大な注意を払って残してこられたことに敬意を表します。また、京都大学人間環境設計学講座の田中君、森君には調査作業を共にやり遂げた喜びと感謝を表わします。

【参考文献】

山県英彦「土木学術資料の保存と検索に関する基礎的研究」北海道大学交通計画学研究室，1995.3